

保護者・地域の皆様へ

学校評価・学校関係者評価の公表について

すでに実施しております「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果・分析を資料として、来年度に向けての具体的な取組や改善策を検討するとともに、その内容を「学校運営協議会委員」の方にご覧いただき、学校が自分たちの教育活動を正しく評価し、適切な改善を行おうとしているかについて、さまざまなご意見をうかがいました。

今回は、それを「学校評価・学校関係者評価」として集約したものを、保護者の皆様には配布の上、ホームページにて公表いたします。

来年度へ向けて、タブレットを活用したICT教育を含め、新しい生活様式での学校・地域行事、不登校対策など、浮き彫りになっている課題について、具体的な取り組みの推進を図って参ります。保護者・地域の皆様におかれましては、今後とも本校の教育活動へのご理解ご協力をお願いいたします。

令和5年3月1日

赤穂市立赤穂中学校
校長 猪谷 和寛

令和4年度 学校評価・学校関係者評価

1 本年度の学校経営方針・重点目標

【学校教育目標】	【目指す生徒像】	【目指す教師像】
<p>『志を持ち夢の実現に挑戦する 自立する人づくり』</p> <p>□赤穂中学校の誇りを胸に、感謝の心と 思いやりのあふれる学校を目指して</p>	<p>校訓 『明けく・淨く・直く』</p> <p>【明けく】公明正大で、切磋琢磨して学習に真剣に取り組む生徒 【淨く】心や行いがきれいである、やましいところがない生徒 【直く】正しく堂々とした生活をし、素直で誠実な生徒</p>	<p>I 人権感覚を磨き、感性を高め、人と命を大切にする教師 II わかる授業と学力向上への工夫と改善に努める教師 III 生徒の気持ちに寄り添い、支え伸ばす教師 IV 生徒の主体性と可能性に期待し、信じる教師 V 厳しさと愛情を持って生徒に関わる教師</p>

2 自己評価結果(A～D) A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

◆学習指導					分析と改善の方策				
【本年度の学校努力目標】 ○学習習慣の確立と学力向上を図るため、「わかる授業づくり」への工夫と改善に努め、授業公開や研究協議などの確実な積み上げと合わせて、学習規律の定着を図るとともに、形式にとられないメリハリのある授業展開や学習形態などの研究を進める。					◆学習指導				
					＜成 果＞				
					・タブレットやICT教材活用により、個に応じた学習や課題解決学習・探求学習を充実させ、それぞれの習熟度に合わせた学習を推進することができた。				
					・教員間の授業参観や検討会を行う機会が増加した。教職経験5年未満が3分の1であり、若手教員の育成を含め、計画的に研究授業を実施する事ができた。				
					・生徒アンケートの回答にもあるように、自分の考えや意見を表現する機会が増えており、多くの教員が、意見を言いやすい授業を行っている。また、クラスの雰囲気や学級経営も昨年より改善されている。				
					・デジタル採点システムを導入することで、採点業務を改善することができた。				
					＜課 題＞				
					・ICTやタブレット活用が7割にとどまっている。全職員が活用できるスキルを身につける必要がある。				
					・ICT教材の購入への予算が課題である。				
					・教職員間の授業が増えたものの、5割の状況である。特別支援学級や1人しかいない教科の研修体制が課題である。				
					・指導と評価の一体化ができていない部分があったので、改善が必要である。				
					＜改善の方策＞				
					・ICT・タブレット活用の研修の実施とAIドリルの購入により、さらに個に応じた学習を進める。				
					・特別支援教育の授業参観や学校に教員が1人しかいない教科は、他校との相互参観を実施する。				
					・指導と評価の一体化の研修や評価基準を再確認し、生徒や保護者への理解を図る。				
					・業務改善は教師の意識改革も必要。自分で時間を作り出し、効率化を進める工夫をする。				
					・授業だけでなく朝の会、終わりの会、学活などの授業も公開し、参観できるようにする。				
					・Wi-Fi通信環境の整備や教師タブレット一人一台をそろえる。				
NO	評価項目	A	B	C	D	A	B	C	D
1	各教科において、基礎・基本を明確にし、[指導内容や教材の精選・工夫を行っている。]	15	11	0	0	58%	42%	0%	0%
2	授業内容・指導方法・学習形態等の工夫や改善を行っている。(自ら学ぼうとする意欲・関心を高める/授業を活性化する/個に応じた対応をする等のために)	13	13	0	0	50%	50%	0%	0%
3	思考力や表現力を高める、問題解決的な学習指導を行っている。	12	14	0	0	46%	54%	0%	0%
4	授業で生徒の意見にしっかり「うなずき」、「認めたり褒めたり」できている。	4	22	0	0	15%	85%	0%	0%
5	到達度の低い生徒への対処を課題と捉えて取り組んでいる。	9	13	4	0	35%	50%	15%	0%
6	到達度の高い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫している。	5	17	4	0	19%	65%	15%	0%
7	指導と評価の一体化の観点別評価を行っている。	8	14	4	0	31%	54%	15%	0%
8	GIGAスクール構想推進にあたり、ICTやタブレットの積極的活用した授業をしている。	4	13	7	2	15%	50%	27%	8%
9	学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある。	2	11	11	2	8%	42%	42%	8%
10	教員の間で、授業方法等について検討する機会を持っている。	3	15	6	2	12%	58%	23%	8%

◆生徒指導

【本年度の学校努力目標】

○生徒が、学び合い、支え合い、共に成長する多様な教育活動を展開するとともに、日常的な活動を確実に積み上げることの大切さに気づかせ、自主・自立の精神を培う。
 ○不登校などの課題を持つ生徒へのアプローチを進め、関係機関の協力を得ながら、改善を図る。また、スモールステップによる目標の達成感を積み上げ、学校復帰に向けて取り組む。

11	生徒一人一人の特性を理解し、心に寄り添った指導や支援をしている。	16	8	2	0	
		11%	31%	8%	0%	
12	弱い立場の生徒や気になる生徒、問題行動を繰り返す生徒への声かけを根気よく行っている。	11	13	2	0	
		42%	50%	8%	0%	
13	親しみと馴れ合いの区別を付け、一定の緊張感ある言葉のやり取りをしている。	15	10	1	0	
		58%	38%	4%	0%	
14	生徒の問題行動（暴力防止及び早期対応）に対して組織的に対応できる体制が整っている。	11	13	2	0	
		42%	50%	8%	0%	
15	家庭や地域、関係機関との連携を密にした指導ができています。	9	14	3	0	
		35%	54%	12%	0%	
16	清掃・挨拶・服装などの指導に各担当と連携して、取り組んでいる。	10	16	0	0	
		38%	62%	0%	0%	
17	生徒の基本的な生活習慣は向上している。	4	16	5	1	
		16%	68%	12%	4%	
	①授業の態度・意欲	2	21	3	0	
		8%	81%	12%	0%	
	②あいさつ（登校時・下校時・授業前後等）	2	13	10	1	
		8%	50%	38%	4%	
	③登下校のマナー	0	14	11	1	
		0%	54%	42%	4%	
	④命を守るヘルメットの着用	3	20	3	0	
		12%	77%	12%	0%	
⑤時間が守られている	7	19	0	0		
	27%	73%	0%	0%		
⑥集会（学年・全校・行事）の集合・整列・私語・態度が取り組まれている	12	13	1	0		
	46%	50%	4%	0%		
⑦清掃への取り組みができています。	3	16	7	0		
	12%	62%	27%	0%		
18	学級活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる。	15	11	0	0	
		58%	42%	0%	0%	

分析と改善の方策

◆生徒指導

＜成果＞

- ・ここ数年間、生徒に寄り添い、支える指導を実践してきた。コロナ禍での生徒の心の変化を察知できるよう「聞く・認める・待つ・考えさせる・信じる」を基本に対応している。また、SC、SSW、心の教室相談員、育生センター等の関係機関も最大限に活用し、生徒や保護者の相談体制を整えている。
- ・いじめアンケート、アセス、教育相談、生活ノート等で、素直に悩みを相談する教師との信頼関係を築くことができ、早期発見・早期対応を行うことができた。
- ・授業、集会の態度や時間を守る事など校内での基本的な生活習慣やマナーが身につけてきている。
- ・行事も実施できたことで、学級活動を活性化し、集団の力を引き出すことができた。
- ・課題を抱える生徒に対して、色々な先生方が声かけや配慮を行うことができた。

＜課題＞

- ・校外での登下校中のあいさつやマナーへの指導が十分でない。コロナ禍によるマスク着用や声出しの可否も含め、指導が十分できていないことがある。
- ・不登校に対する様々なアプローチや取組は充実しているが、不登校を生まないための組織的な取組に課題が残っている。
- ・保護者との連携が後手になることがあり、問題が複雑になったり、保護者の不信感に繋がったことがあった。
- ・授業の始まり、終わりの号令やあいさつが統一されず、徹底されていない。
- ・ヤングケアラーや虐待などの対応が明確になっていない。

＜改善の方策＞

- ・保護者への情報提供や連絡（訪問・電話・通信・タブレット配信）などを活用し、普段から情報が共有できるように取り組む。
- ・学校運営協議会と協議しながら、地域と共に安全登校やマナー、あいさつ推進などを実施する。
- ・交通安全教室の実施を継続し、生徒会による啓発活動も取り入れる。
- ・不登校対策委員会を月1回の定期開催とし、機能的に取組を打ち出す。
- ・基本的なマナーは、なぜ大切なのかなどを丁寧に教え、考えさせるような指導を行う。
- ・学校での生活の心得やマナーについて、生徒会や学年委員会などで話し合わせ、決めていく。
- ・担当者が研修を受けてきたときは、全職員に啓発、資料配付、研修などを必ず実施する。

◆ 特別活動 ◆ 人権教育

【本年度の学校努力目標】

- 生徒会を中心とする自主的活動や仲間づくりの活性化と適切な支援により、集団の自浄力を高め、学校の秩序と信頼の定着を図る。
- 人権尊重の精神に基づき、生徒を大切にす立場で考え、実行し、すべての生徒が安心して学習や集団活動ができる学校環境（人・もの・心）をつくる。

19	互いの違いを認め合い、共に支え合う集団づくりを実践している。	9	17	0	0	35%	65%	0%	0%
		35%	65%	0%	0%				
20	集団づくりで埋もれがちな個性や違いを大切に、画一的でなく一人一人の違いを認める生徒観や指導観を持って実践している。	9	15	1	0	36%	60%	4%	0%
		36%	60%	4%	0%				
21	魅力ある学校行事となるよう、工夫や改善を行っている。	8	17	1	0	31%	65%	4%	0%
		31%	65%	4%	0%				
22	生徒が主体的に活動する生徒会活動となるよう、学校全体で支援している。	10	14	2	0	38%	54%	8%	0%
		38%	54%	8%	0%				
23	JRC活動を推進する適切な指導や支援を通して、奉仕の精神を養いボランティア活動への意欲や態度を養っている。	5	17	4	0	19%	65%	15%	0%
		19%	65%	15%	0%				
24	部活動において、生徒が個々の能力に応じて達成感を得られるように努めている。	9	13	4	0	35%	50%	15%	0%
		35%	50%	15%	0%				
25	教育活動全体を通して規範意識を高め、道徳性を涵養する指導や支援を行っている。	5	21	0	0	19%	81%	0%	0%
		19%	81%	0%	0%				
26	教室環境、校内環境、校内掲示、学校園整備、校外環境の改善が図れている。	7	18	1	0	27%	69%	4%	0%
		27%	69%	4%	0%				
27	「道徳の時間」を大切に、よりよい授業づくりに努めたり、指導方法の工夫や改善を図っている。	8	17	1	0	31%	65%	4%	0%
		31%	65%	4%	0%				
28	いじめは「決して許さない」の姿勢で毅然とした指導を行っている。	22	4	0	0	85%	15%	0%	0%
		85%	15%	0%	0%				

分析と改善の方策

◆ 特別活動 ◆ 人権教育

< 成果 >

- ・生徒の心に寄り添う教育相談などを積み重ねる中で生徒理解が進み、人権を大切にす意識が深まった。
- ・道徳や人権教育として、新たな人研課題となるLGBTQ+やジェンダー、インクルーシブ教育に取り組んだ。また制服リニューアルに伴い、生徒へのアンケートを実施することで、実態把握・分析をし、個性を認め合う仲間づくりを実践した。
- ・集団づくりの研修を行うことができ、若手教員を中心に学級経営や生徒会活動・JRC活動について考えを深めることができた。
- ・道徳のローテーション授業により、若手教員の深まった授業や考えさせる授業を行うことができ、参観や公開授業も行うことができた。

< 課題 >

- ・いじめに対しては積極的に認知を行っているが、解消までの持続した取り組み・見守り・確認などが十分でないこともあった。
- ・学校行事が未だコロナ前に戻らず、今後はwithコロナの考え方を含めた検討が必要となる。
- ・部活動においては地域移行に向けての準備として、職員の意識改革と地域の受け入れ体制の確立が課題である。
- ・ボランティア活動が専門部や一部の生徒に限られている。

< 改善の方策 >

- ・生徒指導部会や職員会議で、いじめ解消までの状況や情報共有を行い、チームとして保護者や本人との連携を継続的に行う。
- ・学校行事は、コロナ、熱中症、体力、費用、期間、授業時数など様々な観点から検討し、学校運営協議会と協議を行いながら、生徒や保護者の願いと合わせて検討する。
- ・ボランティア活動を全校に呼びかけ、参加しやすい雰囲気づくりを行い、成果を積極的に発信する。
- ・部活動は、今後の国・県・市の方針を基に、地域移行に向けた準備や、地域や保護者への積極的な情報発信を行う。
- ・部活動の方針は、勝利至上主義でなく、何で充実感や達成感を満たすかを生徒や保護者に伝える。

◆ 特別支援教育の充実

【本年度の学校努力目標】

- 特別支援教育の充実や個別の支援計画、指導計画の有効活用し、小中連携により切れ目ない支援に努める。
- 合理的配慮やユニバーサルデザインを推進する。

29	「特別支援教育」（特別支援学級と通常学級内の支援を要する生徒への積極的な理解を図っている。	14	9	3	0	54%	35%	12%	0%
		54%	35%	12%	0%				
30	一人一人を大切に、異なる個性を輝かせる仲間づくりに努めている。	15	11	0	0	58%	42%	0%	0%
		58%	42%	0%	0%				
31	「共に生きる社会」をめざして、ユニバーサルデザインを意識した授業や環境作りを行っている。	7	14	4	1	27%	54%	15%	4%
		27%	54%	15%	4%				
32	差別や偏見など、生徒たちに身の周りにおける不合理や矛盾に気づく感性を養っている。	9	15	2	0	35%	58%	8%	0%
		35%	58%	8%	0%				
33	支援を要する生徒たちの情報を幅広く交換し、生徒理解や支援について研修する校内の体制ができています。	11	14	0	1	42%	54%	0%	4%
		42%	54%	0%	4%				
34	必要に応じて小学校や関係機関と連携し、生徒支援が適切に進められている	9	13	4	0	35%	50%	15%	0%
		35%	50%	15%	0%				

分析と改善の方策

◆ 特別支援教育の充実

< 成果 >

- ・支援を要する生徒への配慮や情報交換、支援教育の重要性や必要性など知識や理解は、定期的な研修により深まった。
- ・保護者の思いを聞きながら、生徒への支援を具体的に進めることができ、保護者の理解を得ることができた。
- ・個別の支援計画や指導計画の作成が徹底された。

< 課題 >

- ・教室掲示や黒板の板書、タブレット活用、授業の流れ指示、タイム掲示、視覚化などのユニバーサルデザインへの対応が統一されていないところがある。
- ・通級指導のあり方や方針が教職員や保護者に十分理解されていない。
- ・居住地交流や支援学校との交流などが実施されていない。

< 改善の方策 >

- ・ユニバーサルデザインの具体的な取り組みを学習する。その上で環境や授業づくりは、学校全体として指示し、統一的に行う。
- ・コーディネーターを窓口として、保護者や外部機関との連携を密にする。

◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進

○福祉・ボランティア活動や地域への貢献活動を展開・充実させるとともに、わかりやすく見やすい紙面による学校情報の発信、地域団体との連携、オープンスクールの拡充、地域人材の活用などを通して、地域に開かれた学校、地域に根ざした学校教育を推進する。

35	教育活動全般について、生徒や保護者、地域の願いによく応えている。	7	18	1	0	27%	69%	4%	0%
36	教育効果を高めるために地域や外部の教育力の活用を図っている。	2	13	9	2	8%	50%	35%	8%
37	保護者や地域に積極的に情報を提供し、連携に努めている。	7	15	4	0	27%	58%	15%	0%
38	保護者や地域の人たちと接する機会を多くもっている。	1	16	8	1	4%	62%	31%	4%
39	教職員はPTA活動によく参加している。	3	11	12	0	12%	42%	46%	0%
40	教育活動全般について評価を行い、次年度の計画に生かしている。	9	14	2	0	36%	56%	8%	0%

分析と改善の方策

◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進

<成果>

- ・校区内の福祉や医療施設へのメッセージカード贈呈や校区内清掃が実施できた。
- ・ホームページの更新や荒神台などの全戸配布が定着している。
- ・情報教育や食育教育など地域やPTAとともに講演を開催することができた。

<課題>

- ・ふれあいまつりや義士祭のこども義士行列などへの参加ができなかった。
- ・PTA活動として、奉仕作業、体育祭、文化祭など、共につくりあげる形にはならなかった。

<改善の方策>

- ・学校運営協議会の学期ごとの開催を実施
- ・withコロナの考え方を共有しながら、地域や保護者の参加型行事を考える。
- ・まちづくり協議会への管理職以外の教員の参加を検討する。
- ・PTAの会議の開催時間や内容を保護者も教師も負担がないように検証しながら進める。

◆ 学校・教職員

41	「授業が最大の生徒指導である」の視点に立ち、授業規律の確立や授業研究等の校内研修について意欲的に取り組まれている。	11	15	0	0	42%	58%	0%	0%
42	各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。	6	20	0	0	23%	77%	0%	0%
43	職員会議をはじめ各種会議が、意思統一と課題検討・解決の場として有効に機能している。	6	15	5	0	23%	58%	19%	0%
44	教職員間の相互理解が十分になされ、管理職や同僚への「報告・連絡・相談」が十分にできている。	6	17	3	0	23%	65%	12%	0%
45	教育活動における問題意識や悩みについて気軽に相談しあえる。	10	14	1	1	38%	54%	4%	4%
46	様々な事（感染対策）に対する危機意識が高く保たれている。	7	14	5	0	27%	54%	19%	0%
47	課題解決のための校内研修組織が機能し、学校課題に対する研修や取り組みが進んでいる。	9	13	4	0	35%	50%	15%	4%

分析と改善の方策

◆ 教職員の資質向上と人権意識向上の推進

<成果>

- ・落ち着いた授業、分かりやすい授業、規律ある授業などの資質向上ができた。
- ・個々の分掌や教職員間連携などの充実が図られることにより、組織的に機能した。
- ・他学年や他の部活動など垣根を越えて、チームとして協力し、支え合うことができた。

<課題>

- ・職員会議や各種会議、研修会のあり方などが実施方法や必要性を含め、検証する必要がある。
- ・気軽に相談できることについては、全職員ができるようにならなければ課題である。
- ・危機管理意識は、全職員が強く持ち、様々な状況に対応できる体制を確立する必要がある。
- ・職員間の会話や声量、呼び方などが適切でない場合がある。
- ・コロナ対応など保護者によって考え方が両極端になり、学校の方針が理解されないことがある。

<改善の方策>

- ・現在の学校課題が何かを明確にし、組織的な取組体制を確立する。
- ・会議の必要性、時間、内容など業務改善を含め検討委員会で改善する。
- ・事前配布された資料を確認し、会議では質問程度にする。意思統一しなければならないことに時間を取る。
- ・災害マニュアルや危機管理マニュアルの研修を定期的に行う。
- ・ハラスメント防止のための研修や教職員の人権に係わる研修などを定期的実施する。
- ・保護者に安心してもらえるよう、ホームページや通信、学校運営協議会や自治会などに情報発信や協力依頼、意見交流会などを実施する。

学校関係者による総合評価

A 自己評価の結果について

- ・コロナ禍での制約の中、全体として問題意識を持って取り組んでいただいたと思う。また、生徒・保護者・地域とのコミュニケーションの重要性を感じました。
- ・コロナ禍の中で子供たちのために様々な教育活動が行えたことに感謝します。管理職のリーダーシップにより推進して下さい。
- ・コロナ禍の中で、生徒に寄り添う生徒指導に頭が下がります。
- ・今後必要とされるICT活用や情報教育をぜひとも推進して下さい。
- ・保護者や地域、PTAとの関わりの意識が弱まっているのが気になります。コロナが終息した後の取り組みに期待します。
- ・ICT活用にとらわれず、工夫して楽しく分かりやすい授業もできるのではないかと

B 分析と改善策について

- ・適切な課題分析と改善策だと思う。学校だけでなく、予算や環境整備面など地域や市の施策と合わせて考えていかなければならない。
- ・部活動の未入部率が32,5%となり、今後、部活動の地域移行に向けて、当たり前にあったものがそうでないこととして考えなければならぬ。
- ・学校から生徒に、保護者にとどんどん発信していかなければ、学校や教師の思いや考えが伝わっていない事もあるため、改善策の意味が無いことがあります。
- ・C評価が1, 2人になっていても、その対応が大切です。お願いします。
- ・生徒会や学年委員会など自主的な話し合いや取り組みなどを推進し、教師はサポートやバックアップする形が望ましい。
- ・学校運営協議会の学期ごとの開催は是非お願いします。

C 課題と提言について

- ・学校間、教員間の授業研究は、業務内容に組み込んで積極的に行って欲しい。また、ネット上にも様々な研修が公開されています。是非活用して欲しい。
- ・ICT活用やタブレット活用は個々のスキルアップも重要ですが、通信環境や機器の充実を整備していかなければ始まらないと思います。
- ・学校課題や悩みなど何でも相談し合える環境を作り上げて下さい。
- ・部活動の意義は大きく、生徒指導やキャリア教育、進路選択においても大きな教育的効果がある。部活動を存続させるなら学校統廃合も含めてあり方を工夫すべきである。
- ・コロナ禍でないことでの課題分析を行い、新しい生活様式を検討して下さい。例えば「命を守る」災害対策、危機管理、平和、ボランティアなど自分のことも含め、地域や家族のために活躍する生徒の育成を、今後の日本を背負っていく心を育てて欲しい。
- ・欠席など学校への連絡のIT化は、保護者も便利で教員も業務改善になると思います。
- ・生徒、保護者、職員とそれぞれ受け取り方が一人一人違います。学校としての方針をしっかりと打ち立て共有しながら、また柔軟性も持ちながら揺るぎないものにして欲しい。生徒も先生も一人一人を大切に、チーム赤中として頑張ってください。
- ・不登校生徒が多いように思います。全国的に増えているようですが、不登校対策として未然防止も含め、学校運営協議会としてできることもあるかと思っています。協力し合いながら取り組んでいきましょう。
- ・個々の多様性を重視する中で、家庭で行わなければならない教育が学校現場に任され、要望されるようになってきました。だからこそ学校運営協議会や地域と連携を取り協力して取り組んでいきたいと思っています。赤中の生徒であることに誇りが持てるような人づくりを頑張りましょう。